

# 総合的な学習と地域のまちづくりとの連携を推進する 参画型 Web ページの開発とその応用

下村 勉\*・須曾野仁志\*・鷲尾 敦\*\*

「総合的な学習の時間」の本格的な実践が始まっている。筆者らは、学習者が、地域の特色やまちづくりに取り組んでいる人を取材して、そこから得られたことを Web ページにまとめて情報発信することで、「総合的な学習の時間」のねらいを達成するとともに、まちづくり・人の輪づくりの支援につながらないかと考え本研究を始めた。ここでは、これまでの経過・成果と課題および応用例を整理する。

キーワード：総合的な学習 情報教育 参画型 Web ページ まちづくり 交流・連携

## 1. はじめに

これまで、学校教育と社会教育との連携、学校と地域の連携、世代間の交流などの重要性は指摘されていたが、具体的にはなかなか進展してこなかった。しかし、学校教育に「総合的な学習の時間」が新設され、児童・生徒が自らテーマを設定し、地域に出かけて行って調べたことをまとめて発表するといった地域学習が盛んになりつつある。

一方、生涯学習の分野では、従来の教養を広げたり新たな技術を習得する学びから、「地域社会のまちづくり」などのより積極的な学び・活動への発展が見られる。

このような背景のもと、筆者らは、インターネットのもつ情報発信機能が連携の推進に役立つ点に着目した。学習者が、地域の特色やまちづくりに取り組んでいる人を取材して、そこから得られたことを Web ページにまとめて発信する。これで、「自ら学び考える力を身につける」という「総合的な学習の時間」のねらいを達成すると同時にまちづくり・人の輪づくりの支援につながるのではないかと考えた。

そして、Web ページを仲立ちとして、学校教育と生涯学習との連携を推進する絶好の機会

となることを期待した。

## 2. 研究目的と特色

本研究の目的は、学校における「総合的な学習」と地域における「まちづくり活動」との連携協力によって、作り上げる「参画型 Web ページ」を開発するとともに、その活用法について検討することである。

具体的な下位目標は、次の通りである。

1) Web ページ作成のためのシステムと簡易マニュアルの整備

Web ページ作成のために適切なハードウェア・ソフトウェアを整えるとともに、簡易マニュアルを作成する。出前型の講座も想定する。

2) 総合的な学習としての参画型のまちづくり応援 Web ページの作成

総合的な学習において、学習者が地域のまちづくりに取り組んでいる人々を取材して、そこから得たこと学んだことなどをまとめて Web ページを作成する。また、作成された Web ページの改善法や更新の継続法を検討する。

3) 学校教育・生涯学習への適用

上記研究・実践から得られた経験・知見を生かして、学校における総合的な学習の時間での適用や福祉分野・生涯学習分野など多様な場面での適用を試みる。

\* 三重大学教育学部附属教育実践総合センター

\*\* 高田短期大学

本研究の特色は次の通りである。

- 1) 開発する Web ページは、「参画型 Web ページ」とする。

筆者らは、学習成果の共有と継承をめざして、学習成果を学習者自らの手でデータベース化する「参画型データベース」の開発研究を続けてきた<sup>1)~4)</sup>。本研究は、その研究成果を生かして、「参画型 Web ページ」へと発展させる試みでもある。なお、「参画型 Web ページ」については、次章で述べる。

- 2) 「地域のまちづくり」と「学校での総合的な学習」との連携

学習者は地域のまちづくりに取り組む人々から知識だけでなく積極的な姿勢をも学べる。逆に出来上がった Web ページは、まちづくりを紹介し応援するものとなり、お互いにメリットがある。ここでは、Web ページ作成を仲介手段として、「地域のまちづくり」と「学校での総合的な学習」との連携をはかろうとするものである。その概念図を図1に示す<sup>3)</sup>。

- 3) 多様な形態での Web ページ作成支援

情報発信には興味があるが、「コンピュータに自信がない」などの理由で、情報発信を諦めている教師や生涯教育関係者のために、学習や活動の成果を手軽に地域や全国・各地に発信できるように出前型の講座を企画し、その中で Web ページ化をはかる。また、学生ボランティアの活用など多様な支援方法を模索・検討する。

本研究から得られる知見は、本格的に始まった「総合的な学習の時間」や情報教育に関して、具体的な方法や指針を与えるものとして期待できる。

### 3. まちづくり・人の輪づくりを応援する参画型 Web ページの開発

#### 3.1 参画型 Web ページとは

筆者らは、学習者が調べたり創造したりしたこと（学習成果）を、自ら協力してデータベースづくりに参加し、そのデータベースを活用して学習する「学習者参画型データベース」の開

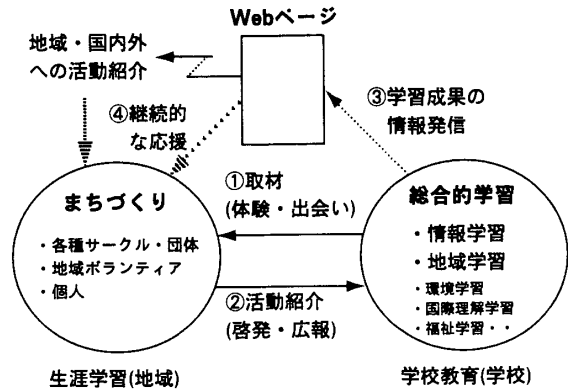


図1 総合的な学習と地域のまちづくりとの連携 (下村ら 1999)

表1 学習者参画型 Web ページの特徴

	教材 Web	参画型 Web
作成者	専門家・教師	学習者
統一性	統一性重視	多様性重視
内容	客観的情報	主観的情報も重視
情報の親近感	親近感少ない	親近感大きい
改善性	改善の余地少ない	改善の余地大きい 追加・修正が前提
冗長性	少ない	大きい

発・活用研究を続けてきた。それを通じて明らかになったことは、「学習者参画型データベースは、教材データベースとは異なる開発法・改善法・活用法の必要がある」ということであった。本研究でもこの成果や考え方を受け継ぎ、特定の専門家や教師によって作成される教材用 Web ページと区別する意味で、「参画型 Web ページ」と呼ぶ。その特徴を表1に示す。

教材用 Web ページでは、一人もしくは数名で作られ、その内容は統一性・客観性が重視される。また、情報が重複することも少ない。とても整っていて完成度も高い。

それに対して、参画型 Web ページでは、多数の参加者によって作成されるため、統一性に欠ける。また、情報の客観性・信頼性も劣る。複数の人が同じようなテーマを選ぶことで、情報の重複も生まれる。このような理由で、一般的には、参画型 Web ページの方は低く見られがちである。

しかし、少し見方を変えるならば、教材 Web では、面白みがなく親近感がわきにくい。完成度が高いので「自分ならこうしたい」という改善点が浮かぶことも少なく、手本として受け入れがちになる。情報が重複することは、その情報が多くの興味関心を引いていること、同じテーマでもとらえ方の違いが分かるなどのメリットもある。

いいかえれば、自分自身が作る立場に立った時、参画型 Web は、多様な発想や考え方・改善点を引き出し、作る楽しさを感じさせてくれる。その意味で、教材 Web にはない良さ・特徴を持っており、これを有効に活用すべきではないか、というのが筆者らのアイデアである。

料理に例えるならば、前者は、レストランで出される料理、後者は家庭の手作り料理で、双方ともに異なる良さがある。プロが作る料理は確かに美味しいが、自分で作ろうという気にならないし、真似ても失敗する。その点、手作り料理は、作りやすくしかも作る楽しさも味わえる。

### 3.2 開発方針

開発に際して、「参画型 Web」を念頭におき、次のことを重視する。

- (1) 課題のねらい、大枠は与えるが、具体的なテーマは自分で決定する。
- (2) 作成者が自ら楽しんで取り組めるものを選ぶ。
- (3) 自分の体験や関わりを重視する。授業時間を現地取材や文献調査などに使っても良い。デジタルカメラも貸し出す。
- (4) 作成者の思い入れや感想など主観的な表現を推奨する。ただし、無責任な発信にならないように、作成者の名前と日付をページに明記する。
- (5) 自分の経験を次回の受講者に生かすべく「作成を終えて」や「感想」のページを残す。

### 3.3 作成方法・手順

ここでは、筆者が担当する大学院の演習授業(半期)や、公開講座を利用して、Web ページ

の作成を試行した。その主な流れは以下の通りである。

#### (1) ガイダンス

授業のねらい・進め方について説明する。過去の作品例を紹介し、動機づけ・イメージづくりをはかる。

#### (2) Web ページの説明と Web ページ作成練習

短時間で作成することを優先して、ホームページ作成ソフト「ホームページビルダー」を中心に指導し、必要に応じて HTML 言語で補足する形をとる。

#### (3) 企画書作成と発表

テーマ設定、動機、おもな内容、計画について考え、企画書を作成する。作成に際して、アイデア発想技法であるブレインストーミングと KJ 法を説明する。作成後に、情報の共有化のため、企画発表会を行う。

#### (4) 取材調査

取材意図および質問項目をまとめる。デジタルカメラで画像を記録する。

#### (5) Web ページの作成

画像の取り込み、説明文の作成、ページのリンクなどを行う。

#### (6) 試作版発表とコメントに基づく修正

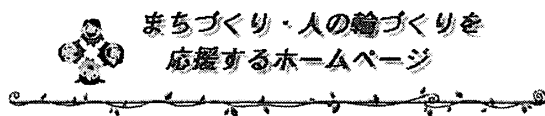
中間発表を行い、他の受講者からのコメントを得る。それを参考にして修正する。2002 年度から、Web 上で、評価とコメントが即時にフィードバックできるシステムを用いている<sup>9)</sup>。

#### (7) 改訂版の作成と発表

最終発表を行い、それぞれの作品を鑑賞する。自分の活動の成果と反省点をまとめる。

### 3.4 まちづくり・人の輪づくりを応援する Web ページの試作例

受講者によって作成された Web 作品をまとめて、「まちづくり・人の輪づくりを応援する Web ページに」登録する。「まちづくり」を広くとらえ、「まちづくり活動」の紹介だけでなく、「地域の名所や見どころ」などの紹介も加えてある。2004 年 1 月時点で、50 を超える Web 作品が登録されている。図 2 は、そのメニューを示すトップページの一部である。



本Webページは、地域のまちづくりと学校教育における総合的学習との連携によって、まちづくりを応援し、同時に総合的な学習や情報教育の充実をめざすものです。教育工学特論の授業や公開講座等を利用して作成されたものです。【三重まちづくり応援プロジェクト(代表 下村勉)】

分野別メニュー					
■まちづくり活動・NPO					
タイトル	ワンポイント	場所	作成者	作成年月	
NPOセラフィック	「あそび・まなぶ・つくる」をコンセプトに「自由な発想」をお互いのつなかりで支援	四日市	稲岡張美	2002.12	
青山高原の風車から始まる...	風力発電施設を有し、地球にやさしい・人にやさしいまちづくりを推進	久居市	牧野 滯	2002.7	
まちの昔話～あの津っ子の会の活動を通して～	伝承文化を児童文学という形で再話している団体	津市	加藤波奈 比嘉梨沙	2001.7	
安濃町ボランティアセンター	ボランティアセンター登録のボランティアグループを紹介	安濃町	前田律子	2001.7	
NPOきらめき・ネット	誰もが自分らしく輝いて生きる社会を目指して	四日市市	天野、若花、村田、國分	2001.7	
日本語教室を通じた国際交流	日本語教室を通じた交流をしている二つのボランティア団体の紹介	鈴鹿市	山本陽子	2001.7	
おかみさんギルド	たてまち商店街女主人の奮闘	津市	松下美智子	1999.3	
津のまち“ときめき”ゼミナール	津のまちの活性化のために	津市	松下大立目	1999.3	
一身田寺内町の町並み保存	高田本山専修寺のある町	津市	井ノ口誠充	1998.3	
■環境					
鎮守の森を夢見る会2	あなたも、一緒に夢を見ませんか	美杉村	藤田雅子	2001.7	
森のそよ風「エコ交流会」	森へ行こう、森のそよかぜに、会いに行こう	四日市市	稲岡張美	2001.7	
まちづくりとリサイクル	資源ゴミリサイクルに関連する情報を提供	三重県各地	山本真二、河村広之、三浦英則、萩田清孝	2001.7	
鎮守の森を夢見る会1	雑木の植樹による森づくり	美杉村	仲津子	1999.3	

図2 まちづくり・人の輪づくりを応援する Web ページ  
(http://cerp.edu.mie-u.ac.jp/machizukuri/index.htm)

以下、その中の特徴的なものを取り上げて紹介する。

(1) 鎮守の森を夢見る会 【環境】

鎮守の森を夢見る会は、雑木の植樹による森づくりをめざして、1996年8月に発足した。植樹、間伐の他、シイタケづくり、炭焼き、キャンプ、コンサートなど多彩な活動をしている。会費・会則なし、自由参加を基本とした緩やかな活動をしている。

なお、同じタイトルで、2つのメニューがある(番号だけが違う)。これは、最初は、大学院生が取材してまとめたもの、2つめはその取材を受けたことがきっかけで、会の主宰者自らも Web ページを作りたいと、筆者のホームペー

ジ作成講座に参加した。そこで、会のページを作るとともに、その後も活動の案内と記録を継続してアップしている。主宰者の思いが、その活動とともに直接的に伝わるページでもある。

(2) まちの昔話～あの津っ子の会の活動を通して～ 【地域文化・歴史】

地域に昔からあるけれど・・・今は忘れられている昔話、そうした伝承文化を児童文学という形で再話している団体“あの津っ子の会”を紹介している。“あのつ”とは、津市の古い名で、三重県津市にある。昭和52年に発足して主婦が中心で活動している。機関紙「あの津っ子」を年2回、20年以上発行し続けている。Web

製作者が、ここの本を読んだ感想も添えて紹介している点もとてもよい。

(3) 玉城弘法 (たまきこうぼう) 温泉の成り立ち【地域文化・歴史】

度会郡玉城區に、アスピア玉城という施設群が出来た。そのアスピア玉城をつくるきっかけとなり、また現在もアスピア玉城の目玉的存在として活躍している玉城弘法温泉について、当時から役場の企画調整課長として一連の計画の指揮を取ってきた人へのインタビューを元に波乱万丈の温泉計画からその発展までを紹介している。「当時は、温泉を掘っているという話は冗談だと思っていた」など、Web製作者の地元住民としての感じ方を交えての紹介がとても興味深い。

(4) The Scoop 伝説都市・鈴鹿

鈴鹿市の有名な?スポットや、不思議な?スポットを、制作者が、飛び込み取材して、詳しく紹介している。「鈴鹿といえばやっぱりレース!と知っているあなた!鈴鹿市にもいろいろと面白いところがあるんですよ!」とあるように、いわゆる名所・観光案内とは全く異なる視点からのアプローチである。個々のメニューにつけられているタイトルも興味を引くように工夫されている。

- ・ トム・ソーヤの木の上の家?! (玉垣町)
- ・ 超古代・宇宙船発着場?! (椿)
- ・ 巨大な手が指すものは?! (神戸)
- ・ 草原の中の巨大遺跡?! (住吉町)
- ・ メカ恐竜出没・注意?! (サーキット道路沿い)

取材によって、Web製作者が投げかけた疑問が種明かしされ、同時に不思議な建造物を作った人のこだわりや暖かさが伝わってくるころがとてもよい。

(5) 青山高原の風車から始まる・・・【まちづくり】

風力発電施設を有し、地球にやさしい・人にやさしいまちづくりを推進している久居市の取り組みと、風車にちなんだ新たな御土産を開発

した経緯が紹介されている。Web製作者が所属する研究室がこれに貢献した利点をうまく生かしている。

(6) 声の広報誌 安濃町声のボランティア【福祉】

視覚障害をもつ人々にも、身近な情報を手に入れるチャンスを得てもらおうと、毎月安濃町民に配られる広報誌「広報あのお」の音声訳のカセットテープの制作に取り組んでいるボランティアグループを紹介したものである。グループのポリシー、生い立ち、「声の広報誌」ができるまで、実際のできあがった音声例、メンバーの声などが紹介されている。

4. 学校教育・生涯学習への応用例

ここでは、同様の発想・考えで取り組んでいる共同研究者・研究協力者の実践例を紹介する。

4.1 津市南立誠小学校「総合的な学習の時間」紹介ー「やさしさの輪を広げよう」(2002年度4年生)の取り組みー

南立誠小学校の「総合的な学習の時間」の取り組みの中で、2002年度4年生の「やさしさの輪を広げよう」について紹介されている。「総合的な学習の時間」の学習成果を中心として、児童が主体的に発信する学校ホームページとなっている。児童の学習成果は、ホームページを通じて、



図3 「総合的な学習」成果の発信  
(<http://www.res-edu.ed.jp/minamirissei/d-portfolio/index.htm>)

保護者・地域の方からもよく閲覧され、掲示板にも反響がある。このホームページは、2003年度のJ-kids大賞の優秀賞（全国2位）に選ばれるなど高く評価されている。ここでの、「総合的な学習の時間」の実践において、三重大大学の大学生が小学生のホームページづくりをサポートするという新たな試み（合同授業）もなされている<sup>6) - 7)</sup>。図3はそのトップページである。

#### 4.2 生涯学習への応用

生涯学習への取り組みの応用としては、地域公民館のホームページづくりがある。これも単なる公民館の活動を紹介するホームページではなく、地域の情報発信支援を行う地域情報リーダーを育成することをめざしたホームページづくりである。共同研究者の一人、鷺尾は、この活動に深く関わることになり、公民館との連携のもとに、学生ボランティアおよび地域情報ボランティアの育成に取り組んでいる<sup>8) - 9)</sup>。現在、「情報ボランティアみえ」が設立され、「こどもパソコン教室」の企画運営に有効な役割を果たしている（図4参照）。

#### 4.3 福祉ネットワークの構築－夢・ひろがりネット

インターネットを利用して、知的障害を持つ生徒とその保護者および福祉的就労施設等で働く人々を結びつけ、外部への情報発信や交流をめざす人的ネットワークを実現しようと企画したものが「夢・ひろがりネットワーク」である。このようなネットワークは、全国的にも数少なく、その構築を三重大大学教育学部附属教育実践総合センター、NPO（非営利団体）セラフィック、玉城わかば学園の3者のパートナーシップで実現しようとした<sup>9)</sup>。

なお、この実践はマイクロソフトとNTT東日本の寄付による「21世紀未来基金」の助成を受けることができた。

### 5. まとめと今後の課題

ここでは、学校における「総合的な学習」と



図4 情報ボランティアみえのホームページ  
(<http://washio.takada-jc.ac.jp/users/jv-mie/>)

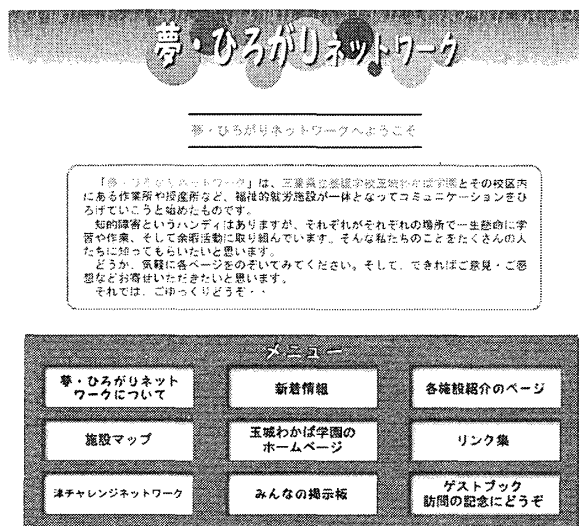


図5 夢・ひろがりネットワークのホームページ  
(<http://cerpte13.edu.mie-u.ac.jp/hirogari/>)

地域でのまちづくりとの連携をめざして、学習者が、地域のまちづくりなどに貢献している人や団体取材して、その内容をWebページにまとめて情報発信する「まちづくり・人の輪づくりを応援するホームページ」の制作とその応用例を検討した。

筆者らは、ホームページ作りの知識や技術に重点をおくのではなく、企画や情報の取材活動を重視することで、さらにオリジナルでわかりやすい情報発信になっているかを相互評価することで、単なるホームページ作成演習では得られない情報発信能力の育成につながることを期待している。

また地域のまちづくりに自主的に関わってい

る人は、とても明るく気さくで積極的な人が多い。そして、自分たちの活動を広げたいという希望を持っている。しかし、一般的には、自らホームページを作成して情報発信する技術や時間をもっていない。一方、学生は、パソコン等の情報技術を身につける能力や時間を持っているが、それらを活用する意義や動機づけに乏しい場合が多い。両者の特徴を生かし、連携することで、新たな可能性が開けるのではないかというのが、本研究の動機の一つであった。お互いの連携によって参画型のWebページが出来上がっただけでなく、授業の感想で、「自分も何か協力できることはないかと考えるようになった」、「新たな出会いがあったこと。これがなにより、このホームページを作成してよかったこと」などの記述がみられるように、人とのふれあいの面でもその有効性の一端を確認することができた。

さらに、研究を通じて、情報ボランティアの役割の重要性を再確認することができた。情報ボランティアは、情報技術の側面改から支援するわけであるが、支援することによって逆により深く学ぶことができる点が随所に現れてきている点も強調しておきたい。

しかし、今後の課題も多い。さらにWebページの作成法・改善法を検討すること、連携をいかに継続していくか、情報ボランティアの継続的な育成をどうはかるか、小・中・高での実践へどう広げていくか、効果を実証的に検討していくこと、など今後の課題である。

(附記) 本研究における取材に快く協力いただいた方々、及びWebページの作成をいただいた受講生の方々に感謝します。また、津市立南立誠小学校の小山史己教諭、三重県立養護学校玉城わかば学園の伊藤真二教諭、四日市市立西朝明中学校の天野昌和教諭には、研究協力者として実践いただいていることに感謝します。

なお、本研究は、一部、平成13～15年度科学研究費補助金基盤研究(B)(課題番号13558016、研究代表者：下村 勉)の援助を受けて行われた。

## 参考文献

- 1) 下村勉：ハイパーメディアを用いた学習者参画型データベースの開発と改善法に関する研究 平成6年度文部省科学研究費補助金研究成果報告書 1995.3
- 2) 下村勉、上谷典秀：World Wide Webにおける学習者参画型ホームページの作成：電子情報通信学会技術報告 ET96-33 1996
- 3) 下村勉、近藤泰城、須曾野仁志：地域のまちづくりを応援する総合的な学習としての学習者参画型Webページの作成 三重大学教育実践研究指導センター紀要 19 1-6 1999.3
- 4) 下村勉、天野昌和、織田揮準：Webページの作成・改善による情報教育の実践 三重大学教育実践総合センター紀要 22 11-18 2002.3
- 5) 下村勉、天野昌和、須曾野仁志：学習成果の改善を図るWebベース相互評価システムの開発と活用 三重大学教育実践総合センター紀要 23 31-36 2003.3
- 6) 小山史己、稲垣博美、須曾野仁志、下村勉：小学校と大学との連携による教育実践の評価 日本教育工学会研究報告集 2003.12
- 7) H. Susono, H. Koyama, T. Shimomura: Creating Web Pages with Elementary Students in the Preservice Curriculum, Society for Information Technology & Teacher education 2004 (15th International Conference), 2004
- 8) 鷺尾敦、下村勉：生涯学習者と学生のコラボレーションによる情報教育、平成14年度情報処理教育研究会 2002.10
- 9) 鷺尾敦、下村勉：地域の情報教育力を高めるためのボランティア活動 日本教育工学会第18回全国大会 2002.11
- 10) 伊藤真二、天野昌和、下村勉、須曾野仁志、田中啓勝：NPO・大学のサポートによる養護学校「夢・ひろがりネットワーク」の実践 三重大学教育実践総合センター紀要 24 2004.3